

イスラエルの人々①

□イスラエルの人々の信仰の手本

信仰によって、人々は乾いた陸地を行くのと同じように紅海を渡りました。エジプト人たちは同じことをしようとしたましたが、水に呑み込まれてしまいました。

(ヘブル 11：29)

□これまでの振り返り

1. アブラハム契約・・・神は、全人類の中から一人の人、アブラハムを召し出し、彼に3つの約束を与えた。土地の約束、子孫の約束、祝福の約束である。神はその約束を確かなものとして、アブラハムと契約を結ばれた。3つの約束のうち、土地と子孫の約束はイスラエル民族だけに対するものであるが、これらを通してアブラハムは復活信仰に導かれた。
2. 3つ目の祝福の約束は、イスラエル民族だけでなく、全人類に関係する。「地のすべての部族は、あなたによって祝福される」。その祝福とは、アブラハムが信じた復活である。アブラハムの信仰にならい、神には死者を生かす力があると信じるなら、全人類、だれであっても神から復活の祝福を受け取ることができる。
3. アブラハム契約が必ず成ると信じる信仰は、復活を信じる信仰でもある。この信仰が、アブラハムからイサク、そしてヤコブ、さらにヨセフへと継承された。
4. エジプト寄留・・・ヤコブは、ヨセフの功労によりエジプト王から国賓の待遇を受けて、家族とともに飢饉を避けてエジプトに寄留することになった。神はヤコブに、恐れずエジプトへ行くように命じた。なぜなら、かつて神はアブラハムに、【子孫たちが他国で寄留者となり、400年間、奴隷となる】(創 15：13)と預言していたからである。実際、寄留開始から30年でヤコブの子たちは移動の自由を失い、それから40年後にヨセフは死んだ。
5. モーセの両親・・・奴隷状態になってから320年後、モーセが生まれた。モーセの父はアムラム、母はヨケベデ(出 6：20)、彼らはエジプト王によるイスラエル民族迫害の中で、命の危険を冒してモーセを隠した。アブラハム契約の約束に基づき、神が必ずエジプトから救い出してくださると信じ、生まれた子どもに神の使命があることを啓示されたからであった。彼らは信仰によって、エジプト王を恐れない勇気を得たのであった。
6. モーセ(第22回から第26回の5回をかけて、「モーセ①」から「モーセ⑤まで」)
モーセ①・・・モーセはエジプトの王ファラオの娘に養子として引き取られ、王族としての教育訓練を受けた。しかし、彼もまたアブラハム契約を信じる信仰を持ち、40歳のときにその信仰によって、勇気と決断を發揮した。彼は「ファラオの娘の息子」と呼ばれるより、神の民であるイスラエルと苦しみを共にすることを選んだ。

モーセ②・・・モーセは40歳のとき、自分の判断と力によって神の使命を行おうとして失敗した。彼はエジプトから逃げて遊牧民のもとに身を寄せ、神の時を待ち続けた。

モーセ③・・・モーセが遊牧民のもとで羊飼いの仕事に従事して40年間、80歳のとき、シナイ山（神の山ホレブ）で神がモーセに現れて言った。「今、行け。イスラエルの民を導き出すためにエジプトに行け。」このとき、モーセは自分にはそのような力はないと何度もしり込みをして神の怒りが燃え上がるほどであったが、神はモーセのために兄アロンを同行者として選んでおられた。

モーセ④・・・モーセがエジプト王ファラオに会って神のことばを告げても、ファラオは聞き入れず、イスラエルの民にさらに重い労働をさせた。そのためイスラエルの民までもモーセの言うことを聞かなくなった。モーセが神に訴えると、神は次のように答えた。

- あなたとあなたの兄アロンは、わたしの命じることをファラオにことごとく告げなければならない。
- しかし、ファラオはあなたがたの言うことを聞き入れない。
- そこで、わたしはエジプトに手を下し、大いなるさばきによって、イスラエルの子らをエジプトの地から導き出す。このとき、エジプトは、わたしが主であることを知る。

モーセ⑤・・・神がエジプトに次々と10の災害を与える中で、モーセがなすべきことは、神に告げられたとおりに語り、神の命じられたとおりに実行することであった。特に10番目の災害では、長子たちを「滅ぼす者（**シャカ**破壊という名をもつ天使、おそらく墮天使＝悪霊）」が自分たちに触れることがないように、信仰によって過越の羊の血を自分たちの家の出入り口の柱と鴨居に塗り付け、過越の食事をした。その夜、長子たちを滅ぼす者がエジプト国内を歩き巡り、エジプトのすべての家々で死者が出た。そのため、ついにエジプトはイスラエルの人々の出国を認めた。

□イスラエルの人々の信仰①

信仰によって、イスラエルの人々は紅海を渡った。かわいた陸地に行くかのように。

エジプト人も同じようにしようとしたが、水に呑み込まれてしまった。（ヘブル11:29）

- 旧約聖書の記録箇所・・・出エジプト記 12:37～14:31
- この出来事は、イスラエルの人々の、荒野の旅40年での、最初の信仰の行い

1. エジプトから出発

- (1) イスラエルの子らは、ラメセスからスコテに向かって旅立った。女、子どもを除いて、徒歩の壮年男子は約 60 万人であった。さらに、入り混じって来た多くの異国人と、羊や牛などおびただしい数の家畜も、彼らとともに上った。(出 12:37~38)
- (2) イスラエルの子らがエジプトに滞在していた期間は、430 年であった。430 年が終わった、ちょうどその日に、主の全軍団がエジプトの地を出た。それは、彼らをエジプトの地から導き出すために、主が寝ずの番をされた夜であった。(出 12:40~42a)
- (3) ファラオがこの民を去らせたとき、神は彼らを、近道であっても、ペリシテ人の地への道には導かれなかった。神はこう考えられた。「民が戦いを見て心変わりし、エジプトに引き返すといけない。」それで神はこの民を、葦の海（紅海）に向かう荒野の道に回らせた。イスラエルの子らは隊列を組んでエジプトの地から上った(出 13:17~18)
- (4) モーセはヨセフの遺骸を携えていた。それはヨセフが、「神は必ずあなたがたを顧みてくださる。そのとき、あなたがたは私の遺骸をここから携え上らなければならぬ」と言って、イスラエルの子らに堅く誓わせていたからである(出 13:19)
- (5) 彼らはスコテを旅立ち、荒野の端にあるエタムで宿営した。主は、昼は、途上の彼らを導くため雲の柱の中に、また夜は、彼らを照らすため火の柱の中にいて、彼らの前を進まれた。彼らが昼も夜も進んで行くためであった。昼はこの雲の柱が、夜はこの火の柱が、民の前から離れることはなかった。(出 13:20~22)

2. 引き返してわざわざ海辺での宿営、そこに追跡してきたエジプト軍が迫った

- (1) 主はモーセに告げられた。「イスラエルの子らに言え。引き返して、ミグドルと海の間にあるピ・ハヒロテに面したバアル・ツェフォンの手前で宿営せよ。あなたがたは、それに向かって海辺に宿営しなければならない。ファラオはイスラエルの子らについて、「彼らはあの地で迷っている。荒野は彼らを閉じ込めてしまった」と言う。わたしはファラオの心を頑なにするので、ファラオは彼らの後（あと）を追う。しかし、わたしはファラオとその全軍勢によって栄光を現す。こうしてエジプトは、わたしが主であることを知る。」イスラエルの子らはそのとおりにした。(出 14:1~4)
- (2) 民が去ったことがエジプトの王に告げられると、ファラオとその家臣たちは民に対する考えを変えて言った。「われわれは、いったい何と何をしたのか。イスラエルをわれわれのための労役から解放してしまったとは。」そこでファラ

オは戦車を整え、自分でその軍勢を率い、選り抜きの戦車600、そしてエジプトの全戦車を、それぞれに補佐官をつけて率いて行った。主がエジプトの王ファラオの心を頑なにされたので、ファラオはイスラエルの子らを追跡した。(出14:5~8a)

- (3) 一方、イスラエルの子らは臆することなく出て行った。エジプト人は彼らを追った。ファラオの戦車の馬も、騎兵も軍勢もことごとく、バアル・ツェフォンのあるピ・ハヒロテで、海辺に宿営している彼らに追いついた(出14:8b~9)
- (4) ファラオは間近に迫っていた。イスラエルの子らは目を上げた。すると、なんと、エジプト人が彼らのうしろに迫っているではないか。イスラエルの子らは大いに恐れて、主に向かって叫んだ(出14:10)。
- (5) そしてモーセに言った。「エジプトに墓にないからといって、荒野で死なせるために、あなたはわれわれを連れて来たのか。われわれをエジプトから連れ出したりして、いったい何ということをしてくれたのだ。エジプトであなたに『われわれのことにはかまわないで、エジプトに仕えさせてくれ』と言ったではないか。実際、この荒野で死ぬよりは、エジプトに仕えるほうがよかったのだ。」(出14:11~12)
- (6) モーセは民に言った。「恐れてはならない。しっかり立って、今日あなたがたのために行われる主の救いを見なさい。あなたがたは、今日見ているエジプト人をもはや永久に見ることはない。主があなたがたのために戦われるのだ。あなたがたは、ただ黙っていなさい。」(出14:13~14)

3. 海の水が分けられ、イスラエルの民はそこを渡った

- (1) 主はモーセに言われた。「なぜ、あなたはわたしに向かって叫ぶのか。イスラエルの子らに、前進するように言え。あなたは、あなたの杖を上げ、あなたの手を海の上に伸ばし、海を分けなさい。そうすれば、イスラエルの子らは海の真ん中の乾いた地面に行くことができる。見よ、このわたしがエジプト人の心を頑なにする。彼らは後から入って来る。わたしはファラオとその全軍勢、戦車と騎兵によって、わたしの栄光を現す。ファラオとその戦車とその騎兵によって、わたしが栄光を現すとき、エジプトは、わたしが主であることを知る。」(出14:15~18)
- (2) イスラエルの陣営の前を進んでいた神の使いは、移動して彼らのうしろを進んだ。それで、雲の柱は彼らの前から移動して彼らのうしろに立ち、エジプトの陣営とイスラエルの陣営の間に入った。それは真っ暗な雲であった。それは夜を迷い込ませ、一晩中、一方の陣営がもう一方に近づくことはなかった。(出14:19~20)

- (3) モーセが手を海に向けて伸ばすと、主は一晩中、強い東風で海を押し戻し、海を乾いた地とされた。水は分かれた。イスラエルの子らは、海の真ん中の乾いた地面を進んで行った。水は彼らのために右も左も壁になった。(出 14:21~22)
4. エジプト軍は、真っ暗な雲の柱によって闇の中に押しとどめられ、一晩中、イスラエルに近づけなかった。午前3時頃になり少し視界がきくようになったので、エジプト軍はイスラエルと同じように海を渡ろうとし、右と左の水の壁の間に入って進んだ。ところが、途中でどの戦車の車輪も外れて立ち往生し、恐怖に見舞われているところに水の壁が崩れ落ちるように戻ってきて、エジプト軍は海の中に呑み込まれてしまった
- (1) エジプト人は追跡し、ファラオの馬も戦車も騎兵もみな、イスラエルの子らの後を海の中に入って行った。朝の見張りのころ、主は火と雲の柱の中からエジプトの陣営を見下ろし、エジプトの陣営を混乱に陥(おとしい)れ、戦車の車輪を外してその動きを阻んだ。それでエジプト人は言った。「イスラエルの前から逃げよう。主が彼らのためにエジプトと戦っているのだ。」(出 14:23~25)
- (2) 主はモーセに言われた。「あなたの手を海に向けて伸ばし、エジプト人と、その戦車、その騎兵の上に水が戻るようにせよ。」モーセが手を海に向けて伸ばすと、夜明けに海が元の状態に戻った。エジプト人は迫り来る水から逃げようとしたが、主はエジプト人を海のただ中に投げ込まれた。水は元に戻り、後を追って海に入ったファラオの全軍勢の戦車と騎兵をおおった。残った者は一人もいなかった。(出 14:26~28)
- (3) こうして主は、その日、イスラエルをエジプト人の手から救われた。イスラエルは、エジプト人が海辺で死んでいるのを見た。イスラエルは、主がエジプトに行われた、この大いなる御力を見た。それで民は主を恐れ、主とそのしもべモーセを信じた。(出 14:30~31)

□新約聖書へブル人への手紙 11章 29節では、「信仰によって、(イスラエルの)人々はかわいた陸地に行くのと同じように紅海を渡りました」とありますが、出エジプト記を読むと、この信仰を発揮できたのは、イスラエルの人々の信仰深さや熱心さ、だったでしょうか？ そうでないとしたら、イスラエルの人々が右と左に大水の壁を見ながら、海を渡ることでできたその信仰とは、だれが支え、導いたのでしょうか？